

# 令和4年に発生した農作業死亡事故の概要

## 1 調査方法

農林水産省は、全国における農作業に伴う死亡事故の発生実態及びその原因等を把握することを目的として、厚生労働省の「人口動態調査」に係る死亡個票等を用いて、令和4年1月1日から令和4年12月31日までの1年間の農作業死亡事故について取りまとめました。

## 2 調査結果の概要

### 2-1 概要 【表1参照】

(1) 令和4年の農作業事故死亡者数は238人であり、前年より4人減少した。

(2) 事故区分別にみると、

① 農業機械作業に係る事故（以下「機械事故」という。）は152人  
（農作業事故全体の63.9%）

② 農業用施設作業に係る事故（以下「施設事故」という。）は5人  
（同2.1%）

③ 農業機械・施設以外の作業に係る事故（以下「それ以外の事故」という。）  
は81人（同34.0%）

であり、機械事故の割合が最も高い割合を占めている。

昨年と比べて機械事故は約7ポイントの減となった一方、それ以外の事故が増加している。

(3) 男女別にみると、男性が210人（同88.2%）、女性が28人（同11.8%）である。

(4) 年齢階層別にみると、65歳以上の高齢者の事故は205人（同86.1%）である。

### 2-2 「機械事故」の発生状況

(1) 機種別事故発生状況 【表1参照】

機種別では、「乗用型トラクター」による事故が最も多く、62人（農作業死亡事故全体の26.1%）、次いで「歩行型トラクター」が21人（同8.8%）、「農用運搬車（軽トラックを含む。）」が16人（同6.7%）と、これらの3機種で農作業死亡事故全体の41.6%を占めている。

(2) 原因別事故発生状況 【表2参照】

原因別では、「機械の転落・転倒」が72人と「機械事故」の約半数（47.4%）を占めている。

乗用型トラクターでは、「機械の転落・転倒」が41人（当該機種による事故の66.1%）と最も多い。

歩行型トラクターでは、「挟まれ」が9人（同42.9%）と最も多く、次いで「回転部等への巻き込まれ」が7人（同33.3%）となっている。

農用運搬車では、「機械の転落・転倒」と「挟まれ」がそれぞれ4人（同25.0%）と最も多く、次いで「ひかれ」が3人（同18.8%）となっている。

2-3 「施設事故」の発生状況 【表3参照】

施設事故は、作業舎の屋根等、高所からの「墜落、転落」「落下物によるもの」「CO ガス等による中毒」が各1人となっている。

2-4 「それ以外の事故」の発生状況 【表4参照】

それ以外の事故は、「熱中症」が29人（それ以外の事故の35.8%）と最も多く、次いで「稲ワラ焼却中等の火傷」が15人（同18.5%）となっている。

2-5 年齢階層別事故発生状況 【表5参照】

年齢階層別では、「80歳以上」が100人（農作業死亡事故全体の42.0%）と最も多く、次いで「70～79歳」が83人（同34.9%）となっている。

2-6 月別の事故の発生状況 【表6参照】

月別では、「8月」が32人（農作業事故全体の13.4%）と最も多く、次いで「5月」が30人（同12.6%）、「10月」及び「7月」が28人（同11.8%）となっている。

表1 農作業中の死亡事故発生状況

(単位：人、%)

	平成25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
死亡者数	350	350	338	312	304	274	281	270	242	238
農業機械作業に係る事故	228 (65.1)	232 (66.3)	205 (60.7)	217 (69.6)	211 (69.4)	164 (59.9)	184 (65.5)	186 (68.9)	171 (70.7)	152 (63.9)
乗用型トラクター	111 (31.7)	95 (27.1)	101 (29.9)	87 (27.9)	92 (30.3)	73 (26.6)	80 (28.5)	81 (30.0)	58 (24.0)	62 (26.1)
歩行型トラクター	21 (6.0)	30 (8.6)	21 (6.2)	35 (11.2)	28 (9.2)	24 (8.8)	22 (7.8)	26 (9.6)	22 (9.1)	21 (8.8)
農用運搬車	33 (9.4)	32 (9.1)	25 (7.4)	37 (11.9)	26 (8.6)	18 (6.6)	26 (9.3)	15 (5.6)	21 (8.7)	16 (6.7)
自脱型コブイン	11 (3.1)	10 (2.9)	8 (2.4)	7 (2.2)	11 (3.6)	8 (2.9)	9 (3.2)	12 (4.4)	16 (6.6)	11 (4.6)
動力防除機	10 (2.9)	12 (3.4)	10 (3.0)	10 (3.2)	6 (2.0)	8 (2.9)	8 (2.8)	9 (3.3)	16 (6.6)	8 (3.4)
動力刈払機	5 (1.4)	8 (2.3)	7 (2.1)	10 (3.2)	12 (3.9)	6 (2.2)	7 (2.5)	7 (2.6)	11 (4.5)	1 (0.4)
農用高所作業機	…	…	…	…	…	…	…	3 (1.1)	1 (0.4)	1 (0.4)
その他	37 (10.6)	45 (12.9)	33 (9.8)	31 (9.9)	36 (11.8)	27 (9.9)	32 (11.4)	33 (12.2)	26 (10.7)	32 (13.4)
農業用施設作業に係る事故	12 (3.4)	24 (6.9)	14 (4.1)	14 (4.5)	13 (4.3)	13 (4.7)	17 (6.0)	8 (3.0)	7 (2.9)	5 (2.1)
機械・施設以外の作業に係る事故	110 (31.4)	94 (26.9)	119 (35.2)	81 (26.0)	80 (26.3)	97 (35.4)	80 (28.5)	76 (28.1)	64 (26.4)	81 (34.0)
性別										
男	303 (86.6)	305 (87.1)	285 (84.3)	257 (82.4)	266 (87.5)	225 (82.1)	241 (85.8)	232 (85.9)	211 (87.2)	210 (88.2)
女	47 (13.4)	45 (12.9)	53 (15.7)	55 (17.6)	38 (12.5)	49 (17.9)	40 (14.2)	38 (14.1)	31 (12.8)	28 (11.8)
うち65歳以上層に係る事故	272 (77.7)	295 (84.3)	284 (84.0)	254 (81.4)	256 (84.2)	237 (86.5)	248 (88.3)	229 (84.8)	205 (84.7)	205 (86.1)

注：1 ( )内は、事故発生件数に対する割合である。

2 25年、29年の年齢については、不明が1名いる。

3 令和2年から、「その他」に含めていた「農用高所作業機」を分離した。

表2 農業機械作業に係る事故の機種別・原因別死亡者数

(単位：人、%)

事故区分 事故発生原因	農 業 機 械 作 業 に 係 る 事 故								合 計
	乗用型 トラクター	歩行型 トラクター	農 用 運搬車	自脱型 コンバイン	動 力 防除機	動 力 刈払機	農用高所 作業機	その他	
機械の転落・転倒	41 {66.1}	2 {9.5}	4 {25.0}	5 {45.5}	3 {37.5}	0 {0.0}	0 {0.0}	17 {53.1}	72 {47.4}
ほ 場 等	27 {43.5}	2 {9.5}	4 {25.0}	4 {36.4}	3 {37.5}	0 {0.0}	0 {0.0}	12 {37.5}	52 {34.2}
道 路 か ら	14 {22.6}	0 {0.0}	0 {0.0}	1 {9.1}	0 {0.0}	0 {0.0}	0 {0.0}	5 {15.6}	20 {13.2}
道路上での 自動車との衝突	1 {1.6}	0 {0.0}	1 {6.3}	0 {0.0}	0 {0.0}	0 {0.0}	0 {0.0}	0 {0.0}	2 {1.3}
挟 ま れ	4 {6.5}	9 {42.9}	4 {25.0}	2 {18.2}	4 {50.0}	0 {0.0}	0 {0.0}	8 {25.0}	31 {20.4}
ひ か れ	5 {8.1}	1 {4.8}	3 {18.8}	2 {18.2}	0 {0.0}	0 {0.0}	0 {0.0}	3 {9.4}	14 {9.2}
回転部等への 巻き込まれ	6 {9.7}	7 {33.3}	0 {0.0}	1 {9.1}	0 {0.0}	0 {0.0}	0 {0.0}	3 {9.4}	17 {11.2}
機 械 か ら の 転 落	4 {6.5}	0 {0.0}	2 {12.5}	1 {9.1}	1 {12.5}	0 {0.0}	1 {100.0}	0 {0.0}	9 {5.9}
そ の 他	1 {1.6}	2 {9.5}	2 {12.5}	0 {0.0}	0 {0.0}	1 {100.0}	0 {0.0}	1 {3.1}	7 {4.6}
合 計	62 {40.8}	21 {13.8}	16 {10.5}	11 {7.2}	8 {5.3}	1 {0.7}	1 {0.7}	32 {21.1}	152 {100.0}

注：1 ( )内は、事故区分の合計に対する割合を示す。

2 { }内は、農業機械作業に係る死亡事故数の合計に対する割合を示す。

3 事故区分の「その他」は、左記以外の機械（田植機等）の他、機種不明の場合を含む。

表3 農業用施設作業に係る事故の原因別死亡者数の推移

(単位：人、%)

	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
墜落、転落	8 (61.5)	11 (84.6)	14 (82.4)	7 (87.5)	4 (57.1)	1 (20.0)
落下物によるもの	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	0 (0.0)	1 (20.0)
COガス等による中毒	1 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)
酸素欠乏によるもの	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	0 (0.0)	2 (15.4)	3 (17.6)	0 (0.0)	3 (42.9)	2 (40.0)
合計	13 (100.0)	13 (100.0)	17 (100.0)	8 (100.0)	7 (100.0)	5 (100.0)

注：（ ）内は割合を示す。

表4 農業機械・施設以外の作業に係る事故の原因別死亡者数の推移

(単位：人、%)

	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
ほ場、道路からの転落	23 (28.8)	10 (10.3)	11 (13.8)	13 (17.1)	11 (17.2)	12 (14.8)
木等の高所からの転落	10 (12.5)	9 (9.3)	6 (7.5)	6 (7.9)	8 (12.5)	7 (8.6)
道路上での事故	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
稲ワラ焼却中等の火傷	17 (21.3)	23 (23.7)	16 (20.0)	11 (14.5)	9 (14.1)	15 (18.5)
家畜によるもの	1 (1.3)	4 (4.1)	4 (5.0)	4 (5.3)	1 (1.6)	0 (0.0)
農薬による中毒	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.5)
蛇、昆虫によるもの	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	3 (4.7)	3 (3.7)
落雷によるもの	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
刃部によるもの	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
作業中の病気によるもの	22 (27.5)	43 (44.3)	29 (36.3)	32 (42.1)	23 (35.9)	33 (40.7)
うち熱中症によるもの	22 (27.5)	43 (44.3)	29 (36.3)	32 (42.1)	23 (35.9)	29 (35.8)
その他	5 (6.3)	8 (8.2)	13 (16.3)	7 (9.2)	9 (14.1)	9 (11.1)
合計	80 (100.0)	97 (100.0)	80 (100.0)	76 (100.0)	64 (100.0)	81 (100.0)

注：1 （ ）内は合計に対する割合を示す。

2 その他は溺水によるもの等を含む。

表5 年齢階層別死亡者数の推移

(単位：人、%)

区 分	30年	令和元年	2年	3年	4年
30歳未満	3 (1.1)	2 (0.7)	6 (2.2)	3 (1.2)	4 (1.7)
30～39歳	2 (0.7)	1 (0.4)	5 (1.9)	4 (1.7)	4 (1.7)
40～49歳	4 (1.5)	2 (0.7)	3 (1.1)	6 (2.5)	2 (0.8)
50～59歳	12 (4.4)	14 (5.0)	15 (5.6)	10 (4.1)	14 (5.9)
60～64歳	16 (5.8)	14 (5.0)	12 (4.4)	14 (5.8)	9 (3.8)
65～69歳	26 (9.5)	41 (14.6)	33 (12.2)	23 (9.5)	22 (9.2)
70～79歳	67 (24.5)	89 (31.7)	101 (37.4)	75 (31.0)	83 (34.9)
80歳以上	144 (52.6)	118 (42.0)	95 (35.2)	107 (44.2)	100 (42.0)
不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
合計	274 (100.0)	281 (100.0)	270 (100.0)	242 (100.0)	238 (100.0)
うち65歳以上	237 (86.5)	248 (88.3)	229 (84.8)	205 (84.7)	205 (86.1)

注：（ ）内は合計に対する割合を示す。

表6 月別の死亡事故発生状況

(単位：人、%)

区分	30年	令和元年	2年	3年	4年
1月	6 (2.2)	8 (2.8)	3 (1.1)	7 (2.9)	8 (3.4)
2月	18 (6.6)	7 (2.5)	13 (4.8)	14 (5.8)	7 (2.9)
3月	24 (8.8)	20 (7.1)	17 (6.3)	14 (5.8)	19 (8.0)
4月	21 (7.7)	31 (11.0)	28 (10.4)	29 (12.0)	24 (10.1)
5月	31 (11.3)	32 (11.4)	36 (13.3)	31 (12.8)	30 (12.6)
6月	28 (10.2)	24 (8.5)	28 (10.4)	23 (9.5)	24 (10.1)
7月	57 (20.8)	31 (11.0)	23 (8.5)	25 (10.3)	28 (11.8)
8月	21 (7.7)	40 (14.2)	51 (18.9)	21 (8.7)	32 (13.4)
9月	19 (6.9)	24 (8.5)	23 (8.5)	30 (12.4)	21 (8.8)
10月	18 (6.6)	25 (8.9)	27 (10.0)	23 (9.5)	28 (11.8)
11月	20 (7.3)	21 (7.5)	13 (4.8)	12 (5.0)	8 (3.4)
12月	11 (4.0)	18 (6.4)	8 (3.0)	13 (5.4)	9 (3.8)
合計	274 (100.0)	281 (100.0)	270 (100.0)	242 (100.0)	238 (100.0)

注：（ ）内は合計に対する割合を示す。

## (参考1) 都道府県別農作業事故死亡者数

(単位：人)

	都道府県名	30年	令和元年	2年	3年	4年
1	北海道	22	25	17	9	13
2	青森	6	11	14	8	8
3	岩手	12	12	4	9	14
4	宮城	-	-	11	-	10
5	秋田	5	9	4	8	6
6	山形	-	4	6	4	-
7	福島	7	9	9	8	-
8	茨城	13	11	6	6	6
9	栃木	4	8	7	-	6
10	群馬	10	5	4	8	6
11	埼玉	5	-	-	4	7
12	千葉	10	14	4	5	4
13	東京	...	...	...	...	-
14	神奈川	-	5	4	-	-
19	山梨	9	11	4	5	-
20	長野	18	13	20	15	12
22	静岡	-	6	-	-	5
15	新潟	12	-	7	7	8
16	富山	-	-	-	-	-
17	石川	-	5	-	-	-
18	福井	-	-	-	4	-
21	岐阜	12	4	6	-	7
23	愛知	7	9	6	9	5
24	三重	-	6	-	-	-
25	滋賀	-	-	-	6	-
26	京都	-	4	-	-	-
27	大阪	-	-	-	-	-
28	兵庫	5	5	8	8	7
29	奈良	-	-	-	4	-
30	和歌山	-	-	-	5	-
31	鳥取	-	5	-	6	-
32	島根	5	-	-	-	-
33	岡山	7	8	6	7	7
34	広島	6	5	5	-	8
35	山口	-	6	7	4	4
36	徳島	-	5	4	-	-
37	香川	4	4	5	7	4
38	愛媛	5	10	5	5	5
39	高知	-	5	4	-	-
40	福岡	4	4	4	6	5
41	佐賀	7	4	6	7	-
42	長崎	8	-	11	8	6
43	熊本	8	4	10	9	10
44	大分	8	8	14	6	8
45	宮崎	5	7	7	8	6
46	鹿児島	13	5	10	9	16
47	沖縄	-	-	4	8	-
	全国計	274	281	270	242	238

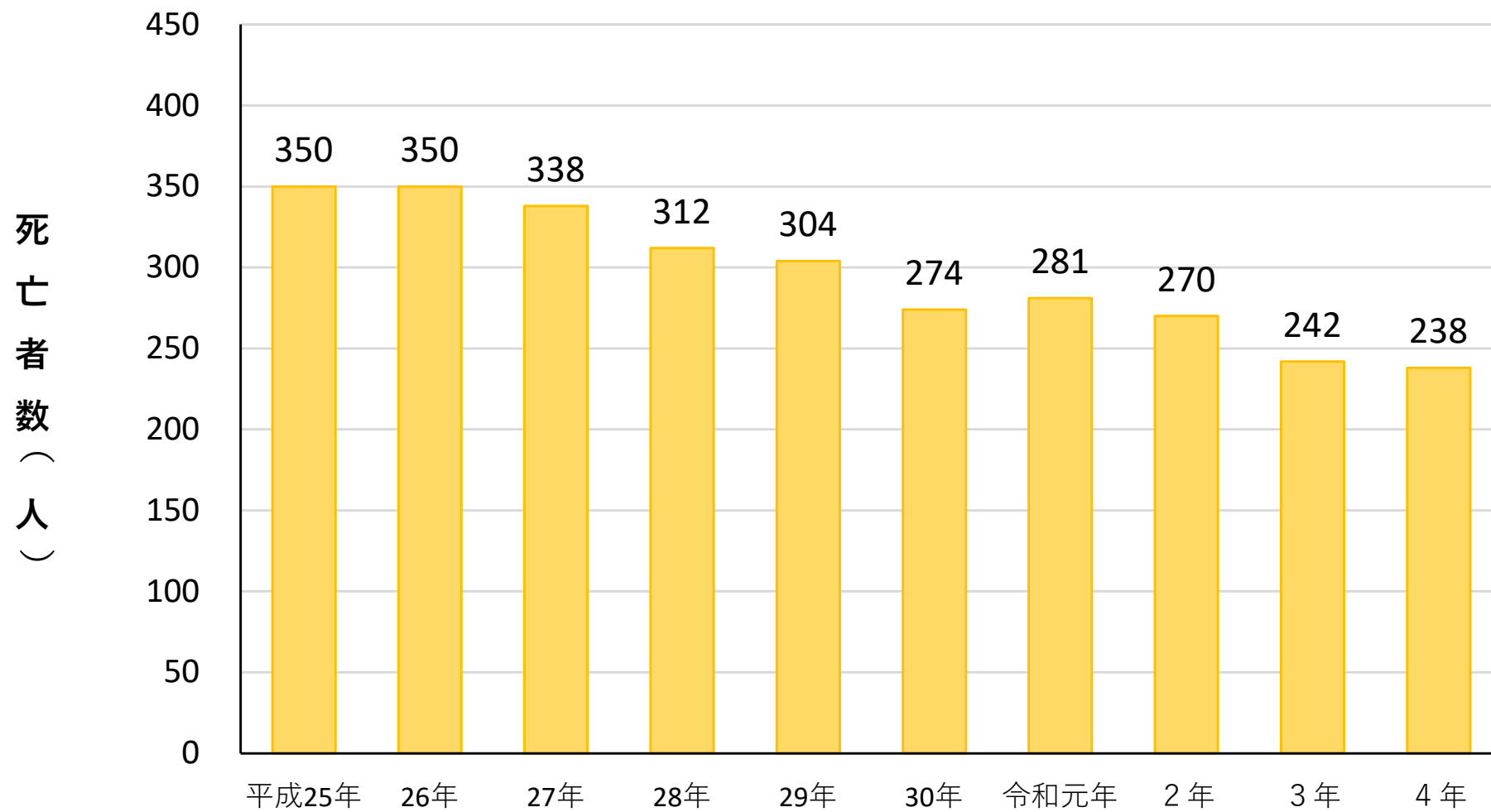
注：1 令和4年より東京都も本調査の対象とした。

2 事故者数が0～3人の都道府県は「-」で示している。

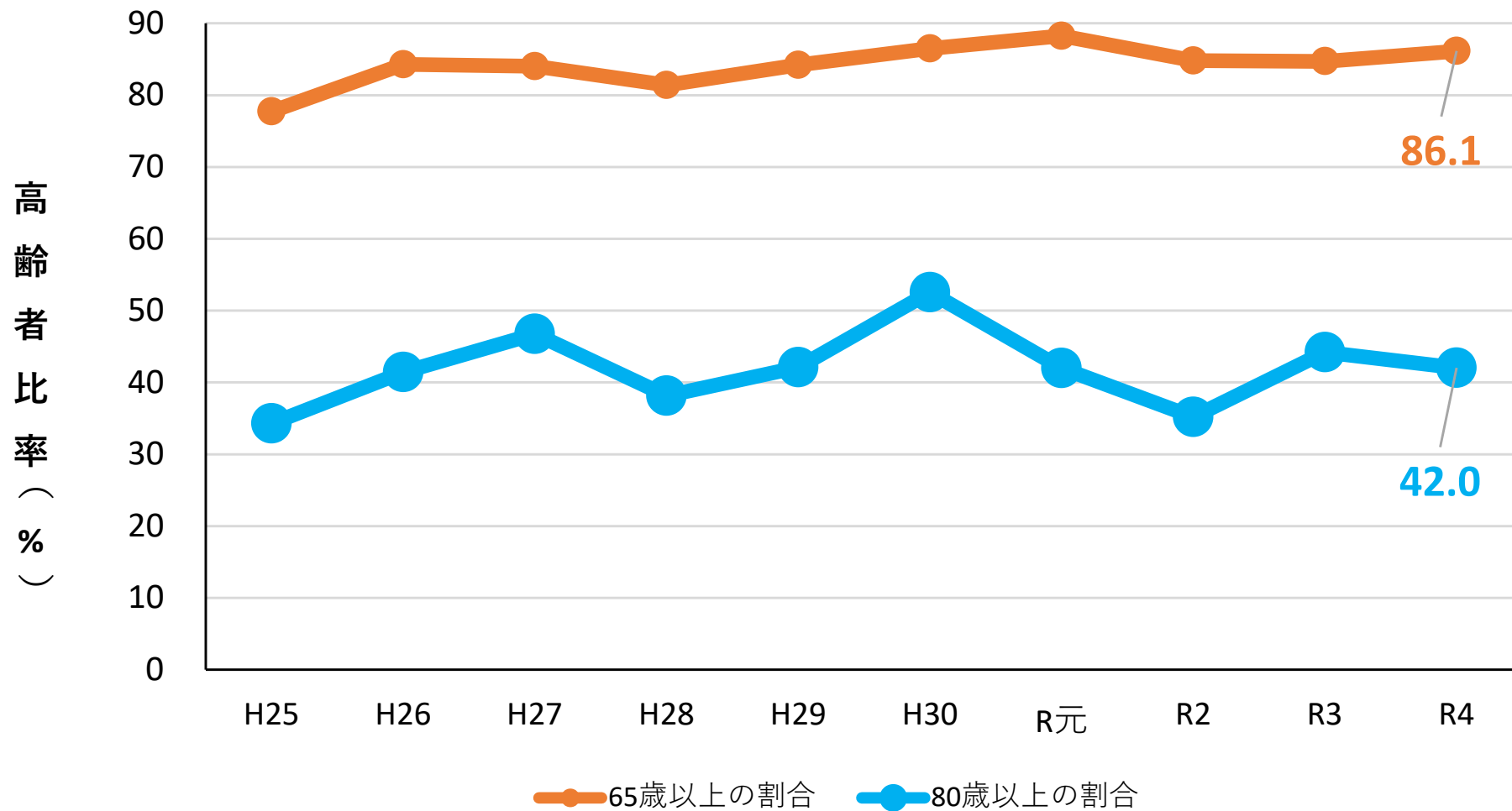
3 本調査結果は、厚生労働省の人口動態調査・死亡個票等によるものであり、各都道府県が独自に実施している事故調査の結果と異なる場合がある。



## 農作業死亡事故の発生状況



# 農作業死亡事故の高齢者比率



# 要因別の死亡事故発生状況（令和4年）

